

《札幌地方推進委員会最優秀賞》



「明るい未来へ」

稲積小学校 6年 中村 優真

なぜ、人々は、犯罪や非行をしてしまうのでしょうか。ニュースを見るたびに、そんな事が頭に浮かびます。なぜ犯罪などがおこるのかを、調べてみたときに、「保護司」という仕事があることを知りました。「保護司」とは、犯罪や非行をした人でも、社会で自立できるように支援する人のことです。僕は犯罪や非行をした人がなにをするのか、分からないので、こわくてできません。それに、動画で、保護司の人に、インタビューしている動画を見ました。

そのときに、質問者が「こわくないんですか？」と質問していました。そして保護司の人は、「こわくないです」と言いました。理由は、みんな同じ人間だからだそうです。そのとき、僕はびっくりしました。僕の中で、犯罪をした人や、非行をした人は、みんな「悪い人」だと思っていたからです。でも、犯罪者や非行をした人は、初めから犯罪や非行に手を染めようとは思っていないそうです。犯罪者などは、育ってきた環境が大きくえいきょうしている事が分かりました。もしかしたら、犯罪や非行をしてしまった人たちには、家族や友達などがいなかったのかもしれない。犯罪や非行は、決して許される事ではありません。しかし本人だけが悪い人だったのでしょうか。

犯罪や非行をした人だけが悪かったとは思いません。「こどく」というさびしさに、心がうばわれ、犯罪や非行をしてしまったのだと、僕は考えます。

人はいつでも道をたどります。その道は人によってちがいます。犯罪や非行をする道としない道があったとして、犯罪や非行をする道に行ってしまった人は、辛いことをいつでも相談できる家族や、自分の気持ちに共感してくれる友達がいなくて、こどくを感じ、誰にも相談できず、犯罪や非行をする道に進んでしまうと僕は思います。

その人だけを責めて、ばつを受けさせる事が正解なのでしょうか。

被害にあった人々のサポートは必ず、必要になります。その時に、加害者にも目を向けてみてはどうでしょう。

そして加害者の気持ちにもなってみてください。

忘れないでください。そうしないと、また再犯を生むことになるかもしれないです。

罪をつぐなうと同時に、心のケアが必要になってきます。ケアをしなかったら、罪をつぐなったあと、もう一回犯罪や非行をしてしまう可能性があるからです。こういう活動の一つ一つが社会を明るくするということにつながっています。

更生しようとしている人たちに、6年生の僕たちは、何ができるのでしょうか。

一つは、情報に流されず、へん見を持たないことです。

今は、テレビに限らず、SNSなどで情報を得ることができます。SNSではうその情報が流れてくることもあります。そのうそか本当かわからない、情報がかくさんされ、すぐには消せません。それがきっかけとなり、再犯をしてしまうかもしれないからです。そして何よりも大切なことは、笑顔で温かい気持ちでむかえ入れることです。

更生し、社会復帰をする事は、とても勇気のいることです。

立ち直ろうとしている人に対し、一人でも多くの人が理解してあげることで、自信を持って歩いていくことができます。

一人一人の思いやりで、小さな輪も大きい輪となり、みんなが寄りそい、明るい未来になると、僕は思います。

